

～あなたの消費が世界の未来を変える～ エシカル消費

エシカル消費のあゆみ

国連環境開発会議（1992年）や京都議定書（1997年）が採択され、世界的な環境ブームが起こった1990年代。日本でもエコ商品を選んで買い物する「グリーンコンシューマー」が新たな消費者運動として注目されました。しかし当時のエコ商品は、「環境」を優先するあまり、デザインや機能性は重視されず、値段も割高でした。そのため、残念ながらグリーンコンシューマーは、消費者運動としてあまり定着しませんでした。

21世紀に入り、経済・社会の国際化、情報化が急速に進むと、私たちの身の回りには安い輸入品があふれるようになりました。そんな中、2012年に施行された「消費者教育推進法」で掲げられたのが、「消費者市

民社会」です。「消費者市民社会」とは、消費者が、自らの消費行動が国内外の社会・経済・環境に将来にわたって影響を及ぼし得ることを自覚して、責任ある消費をする社会のことです。人や社会・地域・環境に配慮する「エシカル消費」と、基本的な考え方で繋がっています。エシカル消費は、2015年に国連の「持続可能な開発サミット」で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の1つに「持続可能な生産消費形態を確保すること」が掲げられたことで、さらに注目されるようになりました。

エシカル消費の対象となる「エシカル商品」は、エコやフェアトレードなどのエシカルな背景が共感を呼ぶだけでなく、品質や機能、デザインといった基本性能が重視され、ファッションアイテムから嗜好品まで種類も多岐にわたっています。

エシカル消費には、どんなものがあるの？

地産地消、地元商店での買い物、
応援消費、伝統工芸など

人や社会に配慮した消費

フェアトレード認証製品、エシカルファッション、福祉作業所で作った製品など

地域に配慮した消費

環境に配慮した消費

オーガニック(有機農産物)製品、
グリーン購入、リサイクルなど

エシカル消費の中から、フェアトレード認証製品、エシカルファッション、応援消費、鉱物資源のリサイクルについて、具体的に考えてみましょう。

フェアトレード認証製品

フェアトレードとは、「公正な貿易」という意味で、途上国から輸出された農産物や原材料を、公正な賃金や労働条件を保証した価格で継続的に購入することです。フェアトレード認証製品には、国際フェアトレードラベル機構の認証ラベルがついています。認証には、経済・社会・環境の3つの分野で細かな基準が設けられているほか、輸入・卸売業者が取引量に応じて生産者に一定の上乗せ代金(プレミアム)を支払うことが規定されています。プレミアムは途上国の生産者や労働者の生活向上、教育や医療の普及に役立てられる資金になります。一方で、認証を受けるには複雑な手続きや費用が必要な

ため、小規模団体や手工芸品などは取得が難しいという問題点も指摘されています。消費者には、ラベルの有無にとらわれず、生産者・労働者の視点で製品を選ぶ力が求められます。

ファストファッションとエシカルファッション

「ファストファッション」のファスト(fast)とは、英語で「速い」という意味です。ファストファッションとは、流行をいち早く取り入れて大量生産し、安く売る衣料品のことです。流行を過ぎると大量の製品が廃棄されます。

2013年、バングラデシュで商業ビル「ラナプラザ」の崩壊事故が起きました。このビルには、イギリスのファストファッションや世界的ブランドの下請け縫製工場が入居し

ており、崩壊によって犠牲となった1100人以上の多くは、低賃金で納期に間に合わせるための過酷な労働を強いられていた若い女性労働者でした。この事故は、ファストファッションの裏側を示す象徴的なできごととなりました。

これに対し「エシカルファッション」は、誰が、どこで、どのように作ったものか思いをめぐらせ、納得して服を選び楽しむファッションです。原料となる綿の栽培や収穫に児童労働がないこと、有害な農薬が大量に使われていないこと、労働者の賃金が適正であることなどに配慮しています。

応援消費

「応援消費」が本格的に拡大したのは、2011年の東日本大震災以降です。自然災害にあった地域の商品を買って支援する「応援消費」は増えています。また、被災地を

旅してお金を使う「応援ツアー」も広がっています。義援金や救援物資を送る被災地支援は一時的に終わってしまいがちですが、応援消費は被災地の持続的な復興を仕事と雇用面で後押しします。

鉱物資源のリサイクル

携帯電話やスマートフォン、パソコン、カメラなどの電子機器には、アフリカなどで採掘される鉱物が使われています。日本は、それらの鉱物に含まれる様々な金属やレアメタル(希少金属)を輸入に頼っています。鉱山や森林を切り開いて採掘されるこれらの鉱物は、石炭や石油のように限りある資源ですが、需要とともに採掘量は増えるばかりです。携帯電話などの電子機器を大切に使うこと、リサイクルできる方法で処分することは、エシカル消費にとって重要です。

エシカル商品の探し方

目黒区内でもエシカル商品を扱っているお店を以前より見かけるようになりました。エシカル商品は、オーガニックショップ、スーパー、コンビニ、通信販売や生協などで購入できます。エシカルに関する認証ラベルやマークがどのような製品についているか、お買い物の際に探してみましょう。

認証ラベルやマークの例

コーヒー、チョコレート、コットン製品、
バナナ、紅茶などについています



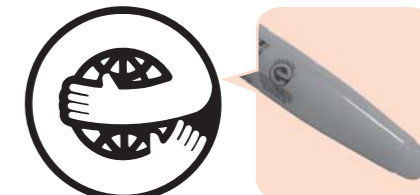
国際フェアトレード認証ラベル

オーガニック繊維製品の衣服やタオルなどについています



GOTS(オーガニックテキスタイル世界基準) 認証

文房具や詰め替え容器など身近な日用品についています



エコマーク

有機栽培された農産物、有機加工食品、
有機畜産物などについています



有機JASマーク

持続可能で、環境に配慮した漁業で獲られた水産品についています



MSC「海のエコラベル」

ノートや鉛筆、ティッシュなど木材からできたものについています



FSC® 認証ラベル

私たち消費者は商品を選ぶ時、様々な選択をすることができます。私たち消費者の日々の消費行動は、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会を、持続可能な社会へと変える力をもっています。人や社会・地域・環境に優しいエシカル消費を、身近なことから実践してみませんか？